

食品総合研究所一般公開来場者への
「食の安全」に関する意識調査

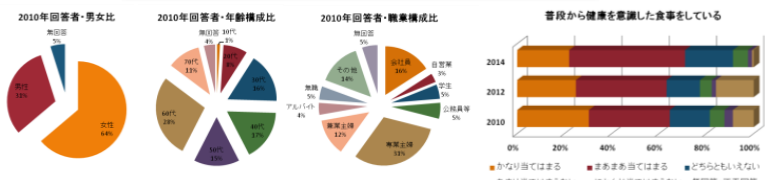
【目的】消費者が「食の安全」に関して、「どのようなハザードに対して、どの程度の不安」を抱いているかを調査することを目的として、研究所一般公開来場者に対し、アンケート調査を実施した。

【方法】平成22年、平成24年、平成26年4月に行われた農研機構 食品総合研究所一般公開への来場者（高校生を除く18歳以上の男女）を対象として、自記式のアンケート調査を行った。アンケートの内容は2つのテーマ（①「食の安全」を脅かすものとして、どのようなハザードに、どの程度の不安を抱いているのか。②商品購入時に、どのような点をチェックして商品を選択するか。）に区分し、選択回答形式の質問を設けた。

[illegible]

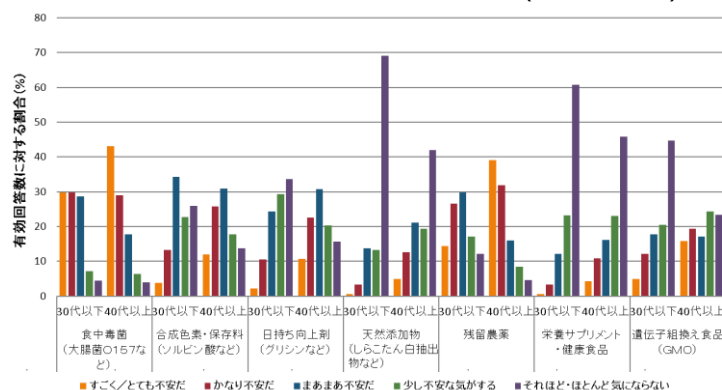
配布冊子例(2014年配布分)

回答者データ(2010年)※2012、2014年は割愛

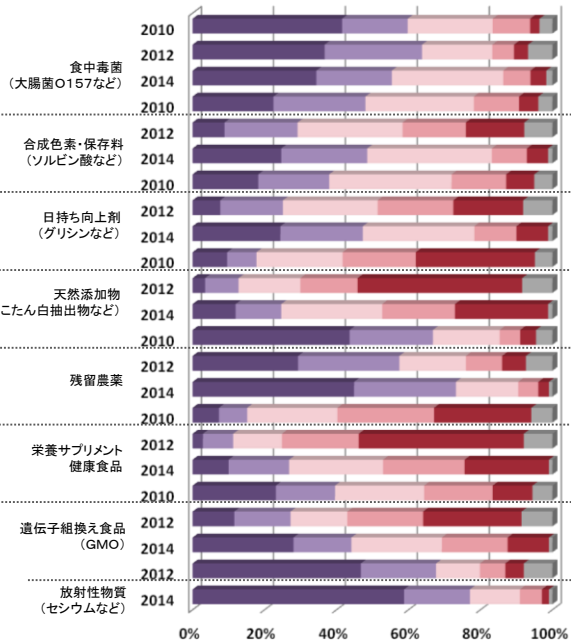


質問①「あなたは、何が、どれくらい不安ですか？」

回答者の年代による「不安の大きさ」の違い(2010年のみ)

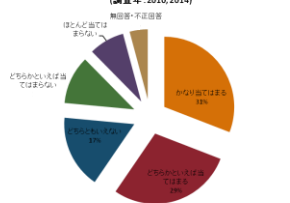


アンケート実施時期による「不安の大きさ」の違い



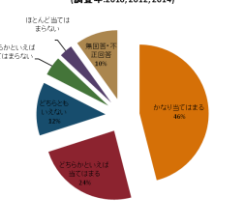
質問②「商品選択の際に、何を、どれくらい重視しますか？」

食品添加物や着色料の表示を確認してから商品を購入する
(調査年: 2010, 2014)



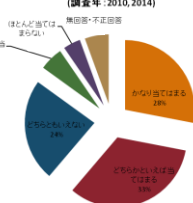
回答者数(2年合計):1024名

食品を購入する際には、できるだけ新しそうな商品を選ぶ
(調査年:2010,2012,2014)



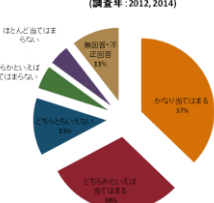
回答者数(3年合計:1689名)

通常の商品よりも「オーガニック(有機栽培)」や「無添加」の商品の方が安全だと思う
(調査年:2010,2014)



四、營業額(2年合計) 1,025億

以前よりも農水産物や食品の産地を気にするようになった
(調査年:2012,2014)



© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd